



高崎山 だより

No.91

takasakiyama dayori
2006.12.20

おさるガイドがおしえてくれる
高崎山のおんなこと、こんなこと。

名物”サルだんご“で冬も大にぎわい。



国立公園

高崎山
自然動物園

パラパラの子

「パラパラ」という名前のサルが今年、出産をしました。この「パラパラ」の今年産まれた子が最近よく私に近づいてくるのです。最初はかなりビックリしました。なぜなら赤ちゃんサルが近づいて来ることは、あまり考えられないからです。

「パラパラ」も子供がどこにしようが、泣いていようが動揺することがない放任主義のお母さんなのです。

特にマイクを持ってお客様に説明をしているときに、近づいてきます。私も対応があまりできないのでほうっておくと、なんとその子が足にしがみついて上がってくるではないですか！それも一度や二度ではありません。何度もです。

さすがにお客様からも「なんでそんなに仲がいいのですか？」って聞かれました。でも聞かれても私自身が理由が良く分かりません。なぜでしょう？このときほどサルと話ができたらいいなと思ったことはありません。

間違ってもお父さんじゃありませんよ！



事件発生？

ある日の出来事です。

30分に1度の餌付け時間となり、係員が「バケツ」を手に小麦をまきはじめました。すると、餌につられ集まるサルと見物するお客様でサル寄せ場は騒然としていました。その時です。事件は発生したのです！何と子ザルが大の字で倒れているではないですか。まさか死んでいるのか？最悪のシナリオを思いつつそとちかづくと、目を閉じたまま子ザルはスヤスヤと寝ていたのです。

ただ、私の様子に気づいたお客様が、子ザルに群がってきました。大勢の群衆の中、子ザルはいっこうに動こうとはしません。安らかな寝顔の子ザルのユーモラスな格好にしばらく注目です。それから数分後、子ザルは突然目を開け起き上がりました。辺りをキョロキョロ見渡したと思ったら一気に走り去って行きました。

当然、遅刻した子ザルには気の毒ですが、餌(小麦)はすでにありませんでした。

おい！

高崎山のサルたちは、「おい！」って言われると振り向くのですよ。みなさん知っていましたか？

なぜなら、係員がサルを「おい！」としか呼ばないからです。意外かもしれませんが、名前ではありません。

さて、日ごろから「おい！」と呼ばれているサルを代表して、B群αオス「ゴロゴ」を名前で呼んでみる実験をしました。結果は、予想通り無視されてしまいました。

ところで、最近お客様の中で、「おい！」という言葉が、ちょっとしたブームになっています。私たち係員のまねをするからです。高崎山に来られた時は、サルに「おい！」って声をかけてください。

ただ、「おい！」って呼ばれて振り向く人はサルに近い人ですからご注意ください！！



ずうずうしいホクト

サルにもいろいろ性格があります。

C群の10位に「ホクト」という名前のオスザルがいるのですが、この「ホクト」は小麦の餌の時には必ずといってよいほど上位のオスのそばへ行きます。通常のオスザルは自分よりも上位のオスザルのそばへ行くと怒られるかもしれないと緊張するため、そういったオスのそばへは行かないのですが、「ホクト」は餌を目当てにそばへ行くのです。

上位のオスは時々餌を食べ残します。「ホクト」はそれが目当てにそばへ行くのです。たまには上位のオスにしかられることがあります、そんなことはお構いなしです。人間でいうと「ずうずうしい」性格の持ち主なのでしょう。

今日も上司に怒られながら、それでも餌目当てにずうずうしい「ホクト」は上司の目の前に座っています。

αオス「ゾロ」

αオス「ゾロ」が食べ残した小麦をすかさずいただくホクト



ホクト

調査の流れ

集合後、
調査地点まで
移動



移動中

PM2:00～



さて今回は
何頭数えたかな？

ひたすら
待ち続けます！

PM1:00～
B群カウント



PM3:30頃
C群カウント

終了



ただいま1,268匹

高崎山自然動物園では、サルはあくの個体数を把握するために、高崎山寄せ場2群ちようさ調査を11月27日から12月1日にかけて行いました。

調査の結果はB群487頭、C群781頭の計1,268頭です。

今年も個体数調査ボランティアさんこたいすつちようさのご協力をいただきまして無事調査を終了することができました。ご参加いただきました河野志津子さん、岡本龍二さん、松井猛さん、前田敏馬さん、山口登さん、藤崎薫さん、加藤政昭さん、小磯森行さん、安部寿兼さん、横山嘉子さん、近藤慎也さん、上田拓弥さん、岩崎綾子さん、段みどりさん以上14名の方々に、心かんしゃもうから感謝申し上げます。

(名簿は受付順です)



高崎山に寒い冬がやってきました。

山の木々はすっかり葉を落とし、見るからにさみしくなります。この時期サルたちはいたる所でくっつきあいながら寒さをしのぎます。これが冬の名物「サルだんご」です。とって食べられませんよ。

また、恋の季節でもあります。顔を真っ赤にしたサルが、鬼ごっこのように寒さに負けず走る姿を見かけます。

とはいえ寒さは身にしみます。サル寄せ場にストーブを出していますが、サルもお客様と一緒に暖をとります。寒いのはサルも同じですね。

あたたかい春が待ち遠しくなります。



サルたちの冬



ストーブにあたるサルの様子

高崎山

サル物語

B群487頭の群れに「オレケイ」という名前のメスサル推定11歳(人間の年齢で35歳ほど)がいます。ちなみにB群婦人会長と呼ばれているサルでもあります。

性格は怒りっぽく、周りのサルたちも恐れるほど怖いサルです。いつも群れの中心部にいる「オレケイ」は、すぐに見つけることができます。「オレケイ」の娘「ビケイ」が今年(2006年)出産をしました。初孫誕生で、「オレケイ」はおばあちゃんサルになりました。

さて、それから2週間が経過した日の出来事です。山から下りてきたB群のサル達の中に、「オレケイ」の姿を見つけました。胸に赤ちゃんサルを抱えているではありませんか！そ



オレケイ

の後しばらくして、娘「ビケイ」の赤ちゃんだと判明しました。その時はやさしいおばあちゃんだと「オレケイ」の行動をみていたのです。ところが、それ以降毎日「オレケイ」は赤ちゃんを抱えているのです。明らかに様子が変わります。さらに、赤ちゃんサルはお乳をもらっていないのか日に日に弱っているのです。娘の「ビケイ」は抱くこともなく母「オレケイ」のそばにいます。結局、「オレケイ」が抱くこと1週間後、赤

ちゃんサルは死んでしまいました。

その後何もなかったように母「オレケイ」と娘「ビケイ」は仲良く一緒にいます。事件の真相はいまだつかめていません。



オレケイ

ビケイ

注 注意看板

「サルの目を見てはダメ」と言われ、まったくサルを見ようとしない子がたまにいます。でも、サルは見てもいいんです。それより、せっかくかわいいサルを見ないのはもったいないですよ。注意看板の「サルの目を見つめてはいけません」とは、サルと目が合うと言葉がありませんので、ケンカをする意味になるからです。

しかし、サルにも性格があります。気の強いサルは顔をのぞきこむと、怒ってきますが、おとなしいサルは目をそらします。サルの顔はみんな赤い？目の色は？いっぱいサルを見て観察してください。つい顔を見すぎて怒ってきたら、おとなしいサルのように目をそらしましょう。

ほら、大丈夫だよ。



ちょっと拝見!

「モノレール上部駅舎待合室」

サル寄せ場から約30mほど離れた場所にモノレールの駅舎があります。空きスペースの壁を利用して、「群れのしくみ」や「体の不思議」などの展示物があります。

お帰りの際、発車時間までの待ち時間に、ぜひご覧ください。



お知らせ 「第2回鳴き声選手権大会 参加者募集」について

- 内容** 参加者にニホンザルの鳴き声のまねをしてもらい鳴き方やパフォーマンスといったアイデアや実際のサルの反応で審査し各賞を競います。
- 日時** 平成19年4月1日(日) 13:00~
- 場所** 高崎山自然動物園 サル寄せ場
- 受付時間** 平成19年3月1日(木)~15日(木)
- 申込方法** 電話097-532-5010でお申し込みまたは、氏名・年齢・住所・電話番号をご記入の上、FAX 097-536-2500 mail takasakiyama@sunny.ocn.ne.jp へお申し込みください。



サヤカの時間

前号で特集しましたB群「サヤカ」ですが、連日元気な姿を見せてくれています。

ただ、午前中にお越しいただきましたお客様には申し訳ございませんが、「サヤカ」をご覧になれません。

B群の出現時間はおおむね午後2:00以降になりますので、お越しの際はご注意ください。



大分市内の小学生は入園料が無料です。名札を見せて窓口にお申し出ください。

ご意見・ご要望をおまちしています



国立公園

高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1

Tel.097-532-5010 Fax.097-536-2500

<http://www17.ocn.ne.jp/~takasaki/>